

江戸の本 ー 錦絵の世界 ー 展はじまる

3階展示コーナーにて開催!!



「忠義士伝」(大星由良之助良雄)

伎などの芝居、史話などを元に作られたお話は、当時人々の浮世絵師たちにより描かれたさし絵とともに、多くの人々の心をつかみ、流行しました。特に、表紙を飾る絵は、色鮮やかな錦絵で描かれました。

今回の展示では、「忠臣蔵」の登場人物を描いた『誠忠義士伝』をはじめ、江戸時代の草双紙から生まれた錦絵を紹介しします。

【期間】
令和7年7月2日(水)
～9月25日(木)
午前9時～午後5時まで

【休館日】
毎週火曜日、
7月23日(水)・25日(金)、
8月13日(水)・29日(金)、
9月17日(水)・24日(水)・
26日(金)
※9月23日(火)は開館

【開催場所】
大垣市立図書館3階
郷土資料室展示コーナー

ポケット学芸員



※ポケット学芸員をご利用いただけます。詳細は右記QRコードを「ご確認ください」。

7月・8月・9月の
講座情報

ふるさと古文書講座

7月11日(金) 午前
9月12日(金) 午前

ふるさと古文書基礎講座

7月11日(金) 午後
9月12日(金) 午後

学ば大垣講座

7月21日(月祝) 午後
9月23日(火祝) 午後

大垣いま・むかし



昭和25年(1950)の
大垣駅



現在の大垣駅

「子ども向け水の都大垣学習コーナー」開催中!

水の都大垣について学ぶことができるパネル展示と子ども向けの図書の展示を大垣市立図書館1階児童閲覧室前「子ども向け水の都大垣学習コーナー」で開催中です。

パネル展示では、湧き水のしくみや、大垣市にある湧き水の場所を示したマップを常時展示し、7月はハリーポッター、8月は輪中について解説パネルを展示します。図書の展示では、水とは何かを調べるために役立つ

パネル展示と児童向け図書の紹介
自由研究のヒントに

図書や、水をテーマとした絵本などを紹介するほか、水に関する自由研究の助けとなるよう、水辺の生き物や水資源などについて調べ方法がわかる、「調べ方案内」を配布しています。ぜひ、お手に取ってご覧ください。

【期間】
令和7年6月1日(日)
～8月28日(木)

水都大垣再生プロジェクト



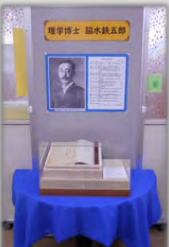
水都大垣再生プロジェクト



子ども向け図書の展示の様子(下)



大垣出身の理学博士
臨水鉄五郎



大垣市立図書館2階北側通路にて解説パネルと関連資料を展示中。



(写真集 独立型堀田
大垣いま・むかしより)

大垣「水」紀行(6)

大垣地域では、水害対策として、輪中が整備され、安定した米の収穫量を確保するため、堀田を進展させてきました。

堀田は、田の一部の土を掘り、その土をとなりの田に盛り土して耕地にしました。そのため、耕地は減りますが、比較的安定した収穫ができるようになりました。昭和30年代からの土地改良事業により、堀田は姿を消してしまいました。

大垣よもやまコラム

ものがたり大垣城

(12)大垣城の戦いゝその5ゝ 長屋浅右衛門

坂東 肇

大垣城の戦いで、城が二の丸まで落ちて、いよいよ東軍が本丸に迫ってきた時、本丸では福原長堯が大将として必死の防戦をしていました。手勢は200人ゝ300人程度でしたが、さすがに大垣城の守りは固く、なかなか攻め込まれることはありませんでした。

江馬活堂の『藤渠漫筆』によりますと、本丸の攻防で活躍した武将として、長屋浅右衛門という人物がいます。浅右衛門は、大垣城に入る前は浪人の身であり、大野郡名礼村(現在の揖斐川町谷汲名礼)に住んでいました。たまたま木村惣左衛門と旧友だったために、惣左衛門の導きによって大垣城に入り、西軍として戦うことになりました。当初は惣左衛門とともに戦っていましたが、惣左衛門が東軍に囲まれて自害した後は、本丸に入り戦いを続けました。浅右衛門は二の丸と本丸に架か

になりました。(何か不手際があったり、自分の都合で他大名に仕えたりする時は、普通その事情を記録に残すことはありません。「故ありて」という表現ですませることが多くあります。)

大垣藩士となった浅右衛門について、寛文5年(1665)の記録によると、家督は子の李兵衛に受け継がれ150石となっています。この長屋家は明治まで続き、慶応2年(1866)段階で、子孫の長屋由郎に受け継がれ、別勘定奉行下役になっていきます。なお、明治24年(1891)に濃尾震災が起きますが、その記録「震災小誌」をまとめたのは、興文尋常高等小学校校長の長屋由郎です。(次号へ続く)



「大垣旧藩城郭ノ図(大)」
(大垣城部分)

レファレンス事例簿

【問い合わせ】

大垣空襲について書かれている本で、貸出ができる本はありますか。

【回答】

昭和16年(1941)ゝ昭和20年(1945)まで続いた太平洋戦争のときに大垣で起きた空襲のことを「大垣空襲」といいます。この「大垣空襲」をキーワードとして検索した資料の中から、貸出ができる本を選んで紹介しました。

紹介した本は、『大垣空襲50周年記念誌』(210・75/オオ)、『水の都に火の雨が降る』(210・75/ヤナ)、『空襲で消えた「戦国」の城と財宝』(709・1/ヨシ)、『杉原恭三 戦争―「少国民」の記憶から：二人の叔父と私』(914・6/スギ)の4冊です。



大垣を
深めよ!

Gaki
Quiz

第12号(春号)の解答
「正木利充」



正木利充は、元禄2年(1689)正月3日、大垣藩士の正木利品、田付左太夫の娘の子として生まれ、安永5年(1776)年に88歳で亡くなるまで、武術を極めた人物です。一刀流剣術、先意流雑刀術をはじめ、多くの武術を習得し、その集大成として、万力鎖を用いた護身術を編み出し、多くの人に伝授しました。「正木利充傳」には、正木利充に関する数々のエピソードが記されています。

おすすめの1冊

『岐阜県の芭蕉句碑めぐり (改訂版)』

野田勝／編



本書は、野田氏が平成17年(2005)頃から令和4年(2022)頃にかけて県内の句碑をめぐり、その記録を、わかりやすくまとめた資料です。

西濃・中濃・東濃など地域ごとに写真付きで句碑が紹介されており、それぞれの句碑について詳しく知ることができる1冊です。

3階郷土資料室にてご覧いただけます。